広報まむろがわ
2013. 8月号

郷土の英傑 鮭延秀綱物語 ③

三、秀綱誕生と庄内武藤氏の鮭延攻め

戸沢村岩鼻での鮭延氏の動向は、今も残っている地名や伝説と、秀綱養育係の六、七人から探ることができる。秀綱は貞綱の次男とはいえ、この数は実に多い。そして養育係の数から推測すると、この岩鼻には少なくとも三百人以上住んでいたのではなかろうか。また貞綱は、この岩鼻を中心に最上地方北部の各地に存在感を示し、土豪衆（鮭延以前から真室の地での館主）をまとめ、その一人である鮭川村庭月氏などを配下においたのも、この時期であったのだろう。

秀綱の誕生は、家臣の岡野九郎左衛門孝以が秀綱の言行をまとめたものによると、庄内の武藤義増の鮭延攻めの時は二歳頃と表記しているので、永禄五（一五六二）年と考えたい。秀綱は戸沢村岩鼻近くの民家で育てられていた。幼名は源四郎、その後典膳、愛綱など多様に名付けられた。

武藤氏は、内陸進攻のために必要な、最上川を上るのに障害となる岩鼻館を永禄六（一五六三）年に攻撃。圧倒的な兵力に押され、貞綱と長男の氏孝は仙北の関口（現湯沢市）に兵と共に逃れ、小野寺氏と共に鮭延の地を取り戻そうとするが、小野寺氏は内紛の真っ直中で、鮭延への加勢がのびのびとなって三年が経ってしまった。その時、武藤氏から使者が来て、「和睦して鮭延の地に帰って欲しい。戻っても武藤の家臣にしない、同輩に扱う。私は最上（義光）を攻略しようと考えている。その時、武藤に味方して先陣を頼みたい。」という趣旨だった。

その時貞綱は、自力で取り戻そうとしていたので、使者に会わずに返したが、その後、また使者が来て、小野寺氏から「真室に帰れ」という指示があった。貞綱親子はやむを得ず庄内武藤領の大沢郷と鮭延領の京塚以南領を交換し、和睦して真室に戻った。その時、五歳になる秀綱も戻る予定であったが、庄内に置かれてしまった。

真室に戻ってまもなく、貞綱は亡くなり、長男氏孝が五代目の領主となった。氏孝は数年領主となったが、永禄十二（一五六九）年に病死した。子もなく名跡が途絶え、庄内武藤氏は城代を置き、鮭延城を支配した。

（真室川町歴史研究会）

鮭延貞綱（秀綱の父）の居城跡（戸沢村岩鼻）を高麗館から撮影

開催 9/1（日）

第38回 真室川町防災訓練

開催地区 大沢地区

※午前6時に町内全域で、午前8時に役場のサイレンが鳴ります。

問 役場総務課 総務・危機管理担当 ☎62－2111（内線211・212）

表紙の紹介

夏祭シーズン真っ盛り

8月15日（木）、真室川町内各地区で夏祭が行われました。今回はその中から砂子沢祭と川ノ内祭を取材しました。

砂子沢祭は、砂子沢の古屋敷にある「薬師琉璃光如来」のお祭です。今年は、地元の幼児・小中学生30人がお参りし、神輿を引いて地区の世帯を練り歩きました。

川ノ内祭りでは、若連と山車協力隊の皆さんが1ヶ月近くをかけて作成した山車が登場。山車の引手と道中囃子には子どもたちも参加し、暑さで大汗をかきながらも、大きな声と熱い演奏で祭りを盛り上げました。

川ノ内祭

砂子沢祭

発行・編集 真室川町役場 企画課 ホームページ http://www.yume-net.org/
〒999-5312 山形県最上郡真室川町大字新町127－5 TEL 0233(62)2111 FAX 0233(62)2731

VEGETABLE OIL INK 「広報まむろがわ」は再生紙と環境に優しい植物油インキを使用しています。